

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

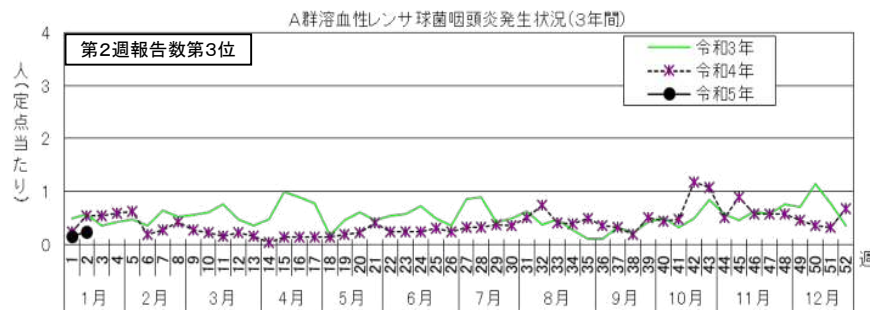
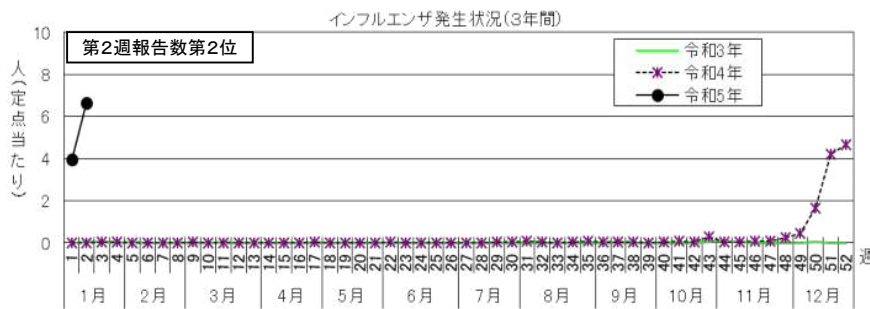
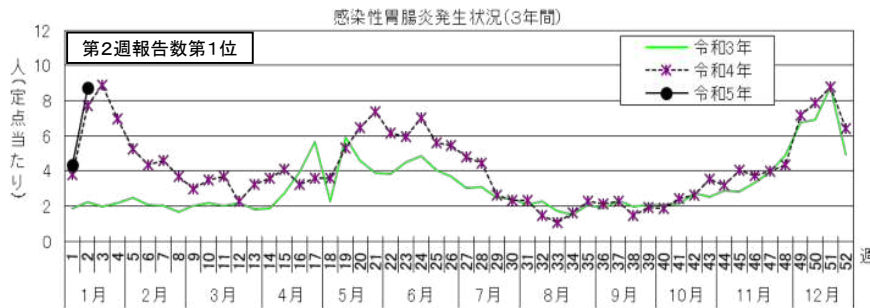
令和5年1月9日（月）～令和5年1月15日（日）〔令和5年第2週〕の感染症発生状況

第2週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）インフルエンザ 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は8.73人と前週（4.32人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。

インフルエンザの定点当たり患者報告数は6.66人と前週（3.95人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.24人と前週（0.16人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



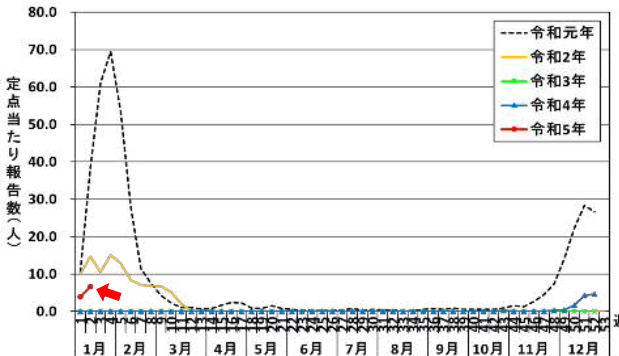
子ども達の間でインフルエンザが流行しています！

川崎市におけるインフルエンザの定点当たり報告数は、令和5年第2週（1月9日～15日）に6.66人となり、先週から増加しました。また、1月13日には、市内において令和元年以来3年ぶりに、インフルエンザによる学級閉鎖が報告され、1月17日までに計9クラスの報告がありました。

第2週における年齢階級別の割合は、5～9歳が26.1%と最も多く、15歳未満が58.4%と、全体の半数以上を占めています。学校や保育園など、集団生活の場で感染が広がっている可能性もあり、注意が必要です。

インフルエンザだけでなく、新型コロナウイルス感染症の報告も多いため、お子さんの体調不良時は無理をせず、自宅等で休むようにしましょう。また、症状が悪化した場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

川崎市におけるインフルエンザ発生状況(5年間)



川崎市におけるインフルエンザ年齢階級別発生状況(令和4年第50週～令和5年第2週)

